

歯周病の進行により脳卒中リスク上昇

歯周病は独立して心臓血管病と関連することが示されている。歯周病を虚血性脳卒中の危険因子とし、定期的に歯科疾患の治療や管理を行うことで脳卒中のリスクが低減するかについて検討した。

動脈硬化に関する米国の大規模研究（ARIC 研究）のデータを用い、脳卒中の既往がない 10,362 例のうち有歯者 6,736 例を対象に 1 歯 6 点法による歯周組織検査を行い、歯周病の状態を 7 段階（PPC-A：健全～PPC-G：重症）で評価した。そのうち 299 例が 15 年の追跡期間中に脳卒中を発症した。歯周病の重症度が増すと虚血性脳卒中リスクも上昇する傾向がみられた。1,000 人年あたりの虚血性脳卒中の発生率は、PPC-A 群で 1.29、PPC-B 群で 2.82、PPC-C 群で 4.80、PPC-D 群で 3.81、PPC-E 群で 3.50、PPC-F 群で 4.78、PPC-G 群で 5.03 であった。虚血性脳卒中の種類別にみると、歯周病は心原性脳塞栓症および血栓性脳梗塞と有意な関連がみられた（ハザード比はそれぞれ 2.6、2.2）。また、定期的な歯科疾患の治療および管理を行った群では、行わなかった群に比べて虚血性脳卒中リスクが低下した（ハザード比 0.77）。

したがって、歯周病は虚血性脳卒中、とくに心原性脳塞栓および血栓性脳梗塞の発症リスクと関連することが示唆された。また、定期的に歯科疾患を治療および管理することで虚血性脳卒中のリスクを低下させることができると考えられる。

出典：Stroke. 2018; 49(2): 355-362